

ナシ亜連の属間雑種を利用したニホンナシ「クローン苗」の開発と、
それを利用した省力多収栽培システムの開発

1 代表機関・研究統括者

京都府公立大学法人京都府立大学 森本拓也

2 研究期間：令和7年度～令和9年度（3年間）

3 研究目的

遠縁交雑で作出したリンゴとナシの属間雑種を利用したニホンナシ
‘クローン’苗木を開発し、それを利用した省力多収栽培システムの開
発を推進する。

4 研究内容及び実施体制

① 属間雑種における接ぎ木親和性の品種間差異の解明

属間雑種との接ぎ木親和性をリンゴ台木およびニホンナシ品種と
の間で評価し、クローン苗の開発が適用可能な組合せを選抜する。

（京都府立大学，長野県南信農業試験場）

② 属間雑種バイパスによるニホンナシ‘クローン苗木’の開発

属間雑種を中間台木として，リンゴ台木とニホンナシ穂木のバイ
パス接木によるニホンナシ‘クローン苗木’を開発する。

（京都府立大学，長野県南信農業試験場）

③ 属間雑種バイパス苗木の効率的育成法の開発

ニホンナシクローン苗木の効率的な繁殖法および養成法を明らか
にする。

（京都府立大学，長野県南信農業試験場）

5 最終目標

属間雑種に対するリンゴ台木およびニホンナシ品種の接ぎ木親和性
を明らかとし，属間雑種を中間台木としたニホンナシ‘クローン苗木’
の開発とその効率的な育成技術を確立する。

6 期待される効果・貢献

クローン苗木を利用した立ち木栽培，平棚高密植栽培等によってニ
ホンナシの栽培メニューを拡大し，早期成園化と生産基盤の強化を図
り，国内果樹生産の安定化に貢献する。

○研究の目的(背景)

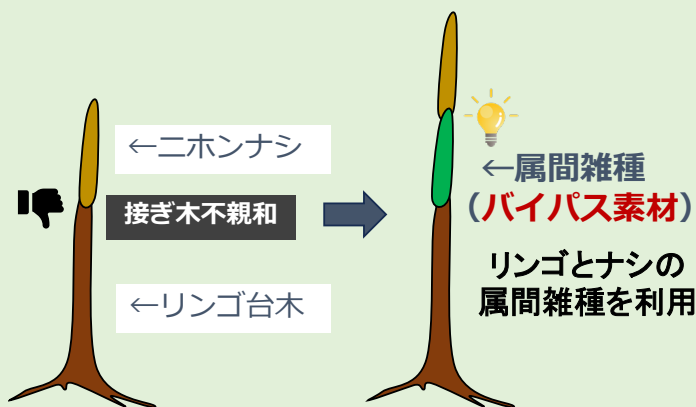
- ・国内のニホンナシ栽培が大幅に減少
- ・生産者人口の減少や樹齢進行によって生産性が低下 **ニホンナシ産業の危機**
- ・リンゴでは、クローン繁殖性の台木シリーズの利用で生産性が向上
- ・しかし、ニホンナシに利用できるクローン台木およびわい性台木は殆どない



わい性台木を利用したリンゴの
高密植栽培

属間雑種を利用したニホンナシ‘クローン苗木’の開発

○研究内容(実施体制)



【属間雑種との接ぎ木親和性の解明】

リンゴ台木品種およびニホンナシ品種との接ぎ木親和性

【ニホンナシクローン苗の開発】

属間雑種を中間台木や自根台木としたクローン苗の開発

リンゴとナシの属間雑種を作出 【クローン苗の効率的育成法の開発】
[Morimotoら, 2024]

クローン苗の早期養成技術

< 京都府立大学, 長野県南信農業試験場 >

属間雑種を利用したリンゴ台木とニホンナシのバイパス接ぎ木でニホンナシ‘クローン苗木’を開発し、ニホンナシの樹勢を制御

○最終目標

属間雑種に対するリンゴ台木およびニホンナシ品種の接ぎ木親和性を明らかとし、属間雑種を中間台木としたニホンナシ‘クローン苗木’を効率的に育成する技術を確立する

○期待される効果・貢献

- ・ニホンナシの栽培メニュー拡大
- ・早期成園化
- ・生産力強化
- ・所得向上, 輸出力強化
- ・果実価格の安定化